

自然体験・環境共育

この分野は、「遊びと学び」に関する要素のうち、環境まちづくりやそれにつながる活動を進める原動力となる、自然にふれあう体験、環境に関する情報の受発信、環境について学び合う環境共育を対象としています。

こんな環境や社会にしたい！！



環境まちづくりビジョン

【自然とのふれあい】

「さあやろまい 子ども集めて池殺生
みんな泥んこ魚取り合い」

【地球への意識】

自然の豊かさにふれ
地球にやさしい生活を実感している

【環境共育】

「おじちゃんも おばちゃんもいる地域の学校
共に育てる 古郷の夢」

【環境情報】

「春はどこ 秋はあそこと遊び場を
多くの市民が知っている」



環境指標と数値目標

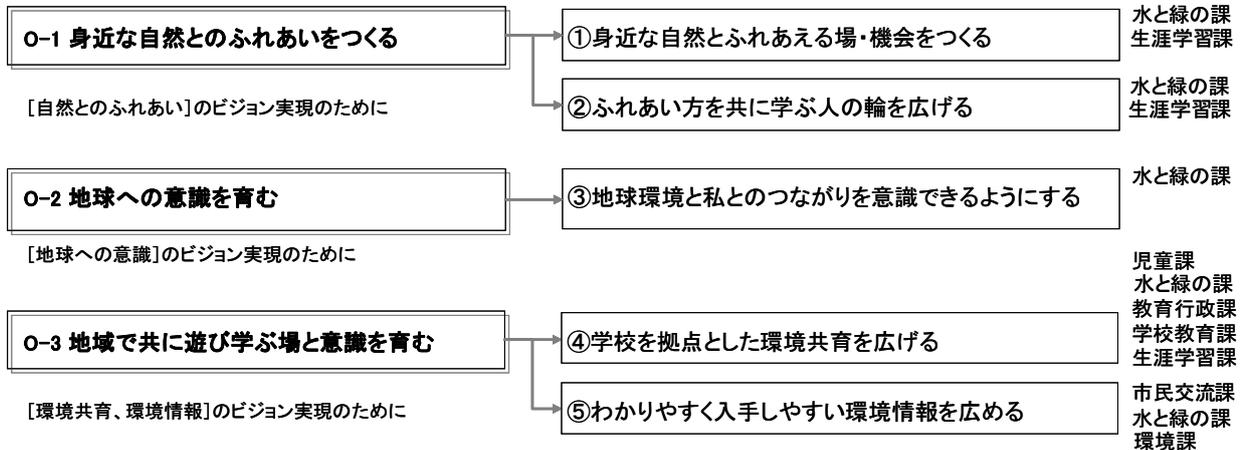
NO.	指標名	現状値[H.19]		短期目標[H.25]	長期目標[H.35]
01	環境連続講座終了延べ数	222	人	450	500
02	市内自然観察会への年間延べ参加者数	561	人	730	1,000
03	学校への環境まちづくり市民講師 年間参加時限数	11	時限	48	110
04	グリーンマップへの延べ参加者数	229	人	510	1,000

[検討・把握する環境指標] 環境情報に関する指標

「環境まちづくりビジョン」を実現するために！こうしていこう！

環境まちづくりプログラム

施策の体系



0-1 身近な自然とのふれあいをつくる

環境意識を育むには小さい頃の自然体験が重要です。日進に残された自然を活かし、ふれあえる場や機会の創出、遊びや学びを共につくっていく人を育てていきます。

[施策メニュー]

みんなで共有できる自然の創出、ナショナルトラスト⁴⁸を進めるNPOの設立、自然あそびの伝承学校、日進自然あそびオリンピックの開催
 自然遊びの達人の発掘と活用、里山ボランティアの育成、日進独自の絵本・紙芝居・写真集・図鑑などの作成



里山保全実践講座の様子



自然観察会の様子

⁴⁸ 「みんなのために永遠に」という理念で自然と歴史的文化遺産を残す運動として、1895年にイギリスで生まれた保全活動の形態。土地の購入など、その活動に要する資金は、主に一般の人々の寄付やメンバーの会費などで賄われる。

0-2 地球への意識を育む

総合的な環境にやさしい生活を広めるために、地球と自分たちとのつながりを意識できるような取組を進め、地球規模で考え、地域で行動できる人を育みます。

【施策メニュー】

地球にやさしい生活をすることによる恩恵を体感できる方法の検討、自分の生活が本当に地球にとってやさしい生活かチェックできる表（環境家計簿など）の作成と普及

0-3 地域で共に遊び学ぶ場と意識を育む

環境への配慮、環境まちづくりへの参加の原動力は、人と人、人と自然とのつながりの中で、多くの遊びと学びを経験することです。そうした遊びと学びの場や機会、遊びと学びに関する情報をつくり伝えていきます。

【施策メニュー】

児童・生徒向け環境共育プログラムの提供、 学校教員向け環境共育実践講座の実施、地域ごとの自主運営型育自⁴⁹サークルによる学校の管理・活用、 地域の人が先生となった生活科・総合学習での地域の宝物探しの実施、児童館などで学習会の開催、土曜学校の開催、 大学を核とした生涯学習の実践、 人材・施設の活用、 生涯学習施設を活用した幅広い学習プログラムの提供

環境連続講座の開催、写真・地図などビジュアルな情報の提供、紙・電子媒体など様々な媒体による受信者の都合に合わせた発信、 グリーンマップの作成と普及、 情報ネットワークを活用した各種団体・グループの紹介、 日進市版環境センターの開設と充実化、 エコドームの企画展示の充実

⁴⁹ 育児を通して、「自分を育てる」という意味の造語。